

令和元年度 学校評価票 保護者まとめ一覧表
(20 / 21名) 95. 2%

ビジョン	No.	質問内容	A	B	C	D	A+B	C+D
行きたい学校	1	学校は、児童生徒一人一人の見え方の状態や障がいの特性に配慮し、進路実現に必要な確かな学力向上のための支援をしていますか。	79%	21%			100%	0%
	2	学校は、視覚障がい教育の専門性と少数人数を生かした個別指導を充実させ、各種大会やコンクールにも積極的に参加するなど児童生徒の自立と社会参加に向けた取組をしていますか。	80%	20%			100%	0%
	3	(理療科生を持つ保護者様のみお答えください) 理療科では、地域の方々への臨床実習をとおり、実技力の向上を図るとともに国家試験の合格へ向けて十分に指導していますか。	100%				100%	0%
行かせたい学校	1	学校は、触れる・確かめるなどの実際の体験を大切に活動積極的に取り入れ、豊かな人間性を育成していますか。	65%	35%			100%	0%
	2	学校は、児童生徒が、自分自身の健康への関心を高め、適切な自己の健康管理を指導していますか。	74%	26%			100%	0%
	3	学校は、給食等を通じた食育を積極的に行い、保護者や児童生徒の食への関心と理解に努めていますか。	63%	37%			100%	0%
	4	(寄宿舎生を持つ保護者様のみお答えください) 寄宿舎では、指導員と保護者の連携を図り、寄宿舎生の生活を充実させ生徒児童の自立に向けた生活能力の向上のために適切な指導していますか。	80%	20%			100%	0%
頼りたい学校	1	学校に設置されている地域支援センターの役割を全県下で積極的に推進し、視覚障がいを有する方とその家族を支援していますか。	50%	44%	6%		94%	6%
	2	学校または各学部は、他校の児童生徒との交流(スカイプ交流等も含む)や共同学習を充実させ、お互いが学びあう教育活動を行っていますか。	39%	56%	5%		95%	5%
	3	学校は、啓発活動(点字ブロックキャンペーン等も含む)を推進し、視覚支援学校の教育活動の理解・啓発を積極的に行っていますか。	63%	32%	5%		95%	5%

A:よく当てはまる B:だいたい当てはまる C:あまり当てはまらない D:全く当てはまらない

○分析

【行きたい学校:わかる授業、できる授業の実践に基づいた確かな知識・技能の習得と進路実現】

今年度、学校経営・運営ビジョンにおいて、1つ目の柱、児童生徒が「行きたい学校」を目指し、見え方や障がいの特性に配慮して進路実現に向けての確かな学力向上を図る支援について、A並びにBの評価として79%と21%という高い評価を得ました。このことから、児童生徒の教育的ニーズに対し、きめ細かな指導をするとともに保護者との連携を密にすることで十分な理解を得られたと考えられます。また、各種大会やコンクールにも児童生徒が積極的に参加し、それぞれ優秀な成績を修めることができました。このことも保護者の方より高い評価を得ました。

【行かせたい学校:発達や障がいの状態に応じて健康や安全な生活と自立に向けた生活能力の向上】

2つ目の柱である、保護者が「行かせたい学校」を目指し、まず触れる、確かめるなど実際の体験を大切に活動積極的に取り入れた指導を行い豊かな人間性の育成に関し、おおむね高評価を得ました。また、児童生徒の健康管理や給食を通じた食育、さらに寄宿舎生に関しても自立に向けた生活能力向上のための支援についても同様に高評価を得ました。こうしたことにより、保護者が「行かせたい学校」に一步でも迫れるようにさらに努力してまいります。

【頼りたい学校:体験活動や地域交流をもとに児童生徒の豊かな人間性と社会性の育成】

3つ目の柱である視覚障がい教育の専門機関として、皆様から「頼りたい学校」を目指し教育実践をしてきました。地域支援センターの活動については、県内の視覚障がいのある幼児から成人並びにその保護者、関係機関に対し多くの支援を行っております。また、他校との交流、視覚支援学校の啓発活動についても積極的に取り組んでおります。アンケートにおいてもAとBで95%と高い評価を得ていますが、Cの評価も一部見られることから地域支援センターの活動やその他の取組について保護者の皆様に対し、広報や啓発の方法について工夫してまいりたいと思います。